



# 常念通り

白板地区公民館  
館報編集委員会  
☎(35) 7740



「田川コーラス」のみなさんによる懐かしい歌や童謡などは一緒に口ずさみ、途中フランダースやピアノ演奏も披露されました。

「きれいな歌声を聴けてよかった。料理もおいしかった」「御殿飾りはめずらしいので見ることができてよかった」「参加できて楽しかった」などと話してくれました。

3月10日(土)、白板地区公民館の大会議室において、ひなまつり会が、46名の参加者で開催されました。

## ひなまつり会



おひな様や御殿飾りは文化委員さん達が飾り付けを行い、五目ちらし寿司、あさりのすまし汁、甘酒などは白板地区食生活改善推進協議会のみなさんの手作りです、なごやかなひなまつり会となりました。





# 白板探検隊 シリーズ 28



国道19号線より踏切がないので渡れません

犬飼神社参道入り口

国道19号線沿い、拾ヶ堰の取水口と筑摩車両との間に島内側からの山道入り口があります。現在は、登り口は道が荒れ、篠ノ井線の線路を踏み切り無しで渡らなければならず、下からの登山は難しくなっています。城山の老人保健施設駐車場から入ることができません。大正5年に登山口から山道にかけて大規模な整備をした跡があり、山道途中の石の鳥居や入り口の記念碑などはこの時に建立されたものです。



## ボウリング大会

2月18日(日) 白板体協主催のボウリング大会が各町会から4~5名の参加を得て賑やかに開催され、青木理事長補佐から賞品・参加賞の提供もあり盛り上がりました。



## やしよごま



1月28日(日) 白板地区子ども会育成会の「親子の料理教室・やしよごま作り」が、白板地区公民館調理室で開催されました。(参加者27名)

## 自治の鐘 丸ノ内中学校

2

### 「地域の方々に支えられて」

いよいよ私たち三年生は卒業を迎えました。

三年前、これから始まる中学校生活に期待で胸を躍らせる一方、新しい環境への大きな不安をいだきながら入学したのを思い出します。

私が一年生の頃、先輩方の存在はとても大きなものでした。応援練習での大きな声、部活動での丁寧な指導、時には厳しく叱ってくれることもありました。生徒会でも、挨拶・清掃・合唱での取り組みをその背中で見せてくれました。そんな先輩方の姿にいつか追いつこうという気持ちで常にありました。だからこそ、今の自分があると思っています。

今年度は開校七十周年という節目の年でもあり、学芸発表会では七十周年記念式典が行われ、大きな歴史が刻まれました。地域の方にもたくさんご出席いただき、丸ノ内中学校は私たちが在校生だけのものではなく、地域の方や卒業生の皆さんに大事に見守られているということを実感しました。七十年の間、私と同じように先輩に憧れ、その姿を追いかけ、そうやって伝統を受け継がれてきたのだらうと、丸中生であることを誇らしく感じました。



学芸発表会で演奏する吹奏楽部

私は、吹奏楽部に所属していました。公民館の文化祭で発表させていただいた時には、地域の皆さんに温かく見守っていただきました。作品を見に行くとき早く迎え入れてくださり、切り絵などを教えていただいたり、交流を楽しみむこともできました。

この三年間丸ノ内中学校で過ごし、生徒会や部活動、日常生活でたくさんを経験し、学びました。丸ノ内中学校で学んだことは私にとって財産であり、これから新しい場所へ進んでいくための大きな自信となっています。これまで支えていただいたばかりでしたが、皆さんへ恩返しをするために、将来、地域に貢献できる活動に参加したいと思っています。本当にありがとうございました。

## 「ひな祭り」に想い

### 「ひな祭り」に想い

三月二日、白板地区公民館で文化委員の皆さんが、女子の健康や成長を願う「ひな祭り」に合わせ、ご寄贈された沢山のひな人形を飾ってくれました。今年も節句としてみなさんに祝っていただき人形たちも喜んでいいることでしょう。

飾られた雛人形の中に数点の押絵雛もありましたがこの雛人形の起源は古く、元禄三年「人倫訓蒙図彙(じんりんくんもつずい)」の記録の中に衣装人形として登場する押絵が始まりかと言われています。押絵雛の技法は京都が発祥で幕末から明治にかけ全国に広まったといわれ、押絵の芯に綿を詰め立体感を出したのは江戸末期であるらしい。

「ひな祭り」は江戸時代初期に始まったとされ、明治から大正にかけての約百年がとても華やかで、その主役のひとつが押絵雛でした。

松本でもこの押絵雛の製作は盛んで、松本藩主戸田氏が武士の家に奨励し、犀川通船で各地に出荷されていたようです。白板地区公民館に行かれたらそんなことを思いながらお雛様に会ってください。

(S・F)